

## グループディスカッション 発表

テーマ	背景
A コーディネータの養成	産学官連携の重要性・必要性は言うまでもないが、企業にとって大学の敷居は高く、大学のリソースを活用した新しい技術や製品の開発が成功した例は少ない。企業のニーズを吸い上げ大学シーズとのマッチングを進めるには、コーディネータの存在とそのスキルの向上がますます重要性を増しており、コーディネータの養成に関する課題などについて情報を共有し、解決策のヒントを探る。

### グループ①

④ 産学官連携 — 企業のニーズ把握が重要

↓

どうや、2 ニーズ把握  
おの  
また、ニーズ把握の共有化

↓

- ・ニーズ把握は6人ばつ2や3か  
(企業にとりニーズは秘密事項)
- ・オープン/バージョンを定めたは  
海外では、まだ2113企業あり  
(ビジネスクレジット)
- ・コーディネーター間のコミュニケーション  
コーディネーター交流会とかどう?
- ・各機関間のCDが分業して  
地域のニーズはあかすと  
良いのは?

⑤ CDの採用の仕方について?

- ・現在は機関08が主に、育研の考えが強い
- ・長期的な活動として保障することが必要
- 仕事として独立している (専門職制度も必要)
- ・コーディネーターに若い人が少ない
- 人脈の伝承の必要性

⑥ 企業側からの希望

- ・大学の敷居が高いのは大半が大学の問題  
(スタートが果いと実現する)
- ・企業はどこに相談するべき?  
(産学連携Cは新しい手法には傾向性)
- ・小ロット量で作るための補助金がい  
好いと良い
- ・新しいCDとどこで知りあえる?  
いつも同じ人・同じ話

⑦ その他

- ・CDのプロシエワマネジメント能力は重要
- ・社会科学/人文科学に明るいCDがいると良い!

⑧ ⑨

### [課題共有]

- 保有シーズの把握不足
- 出向者が多く、業務知識の蓄積が乏しく
- コーディネータ育成メニューを模索中
- 若い70Dパーを育成する土壌がない
- コーディネータが1人引継ぎのみ
- 産学連携に非積極的(組織的)
- 企業に営業活動する際にプレゼンする意義がない(今の)
- 義務・実数によりシーズ情報の蓄積が困難

### [アイデア共有]

- 保有シーズは現場に足を運ぶことで得る。キーマンを見つけようとする。
- ↓  
学会・交流会へ積極参加(産学連携学会)
- 経済同友会・経済連合会を活用
- JST 目利き研修等への参加
- 引継時にDBを作成・活用(賢者あり)
- 1年目は見習い制度を導入

### [ポイント] (コーディネータの継続性)

- 模倣する70Dパーのコーディネータの育成体制の確立(北関東の国立大学では事例あり)
- コーディネータ-出向先・連元の継続性を。
- 地域連携による新任コーディネータの研修会を。
- シニアコーディネータの育成(ランク分)
- DBの整備
- コーディネータ選抜の見直し(採用時)

## ② [コーディネータの養成]

テーマ	背景
B コーディネータによる企業課題の明確化	企業にとっては、新たに開発する製品が市場に受け入れられ、収益の向上につながる事が重要であるが、その課題がどこにあるのかブレイクダウンされておらず、適切なシーズや知見を持つ大学研究者を見つけ出すことが困難な場合が多い。コーディネータには、企業の課題を分析し明確化した上で、研究者とのマッチングを図る役割が求められ、かつ事業として利益を生むためのコスト意識やスピード感も併せ持つ必要がある。コーディネータによる企業課題の明確化のポイントはどこにあるのか、参加者の成功・失敗経験を互いに共有し課題解決のヒントを探る。

グループ③

コーディネータによる  
企業課題の明確化

CDは「夢」を描く  
いい課題 → 文系の課題に描く力

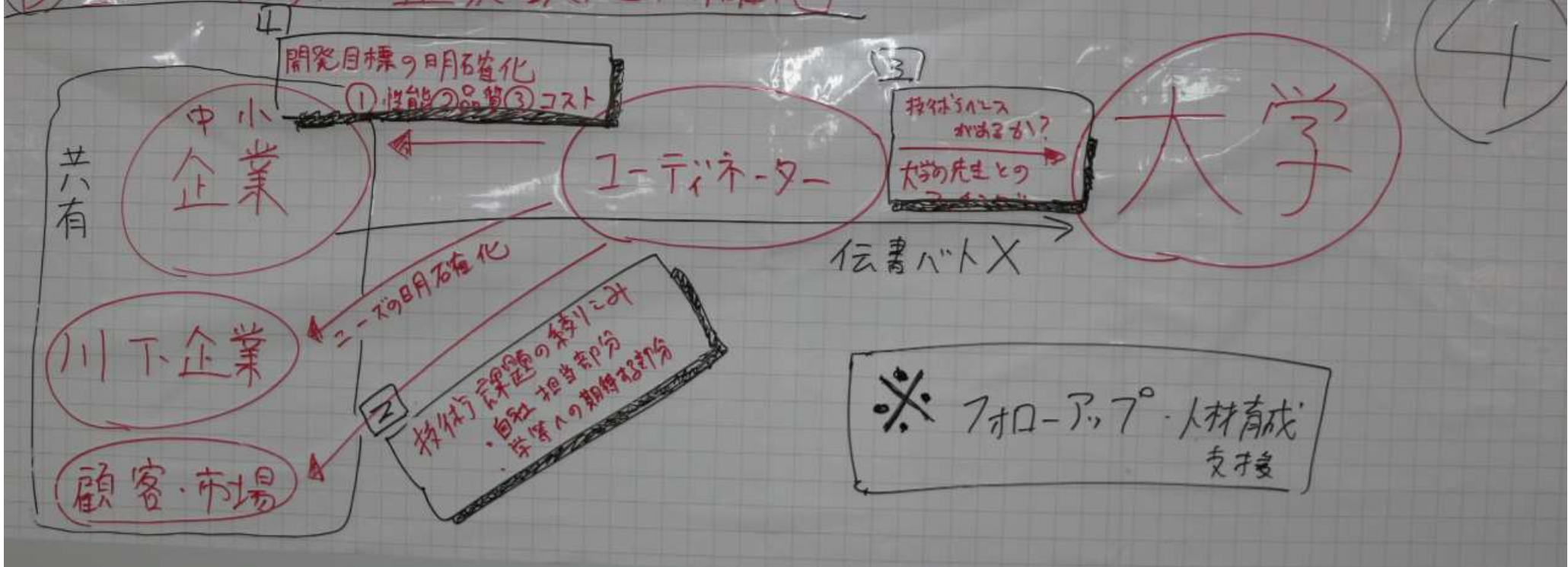
③ 班

- ① 地域企業の困り事の叫び上げ(場)
  - カバーエリアの拡大 → 各公設試の連携強化
  - ・ 公設試には直接もちこまれる (しきりなく連携強化) → 大学との連携強化
  - ・ 公設試で受けられない課題 → 共同研究を創る
  - ・ 同窓会の活用 ← 課題の供給
- ② 経営者研修会, 販路開拓の場の活用
- ③ コーディネーター連絡会を機能させる
- ④ 企業自体が「困り事」がはっきりしない(ニーズ)
  - ・ 相談事項そのものがあいま → 複数の教員との面談によるマッチング(融合)
- ⑤ ビジネスへの見極め
  - 経営の観点による、もうけにつながる流れ → (経営の経験をもつコーディネーターの支援) → 単独は無理か? → チーム編成による支援
  - OJTをする → とどこまで? ?

研究 → 論文  
← 資金

公設試  
大学  
中絶部  
中絶連

# ③ コーディネーターによる企業課題の明確化







テーマ	背景
D 持続可能なネットワークの構築	コーディネータの持つネットワークは属人的であることが多く、退任によりそのネットワークが活用できなくなる場合がしばしば見受けられる。ネットワークを共有化し、企業・大学・国研・公設などの連携ネットワークを持続的なものとするためのヒントを探る。

グループ⑦

**課題**

人の切れ目が系統の切れ目 ⑦

パターンA  
パターンB

① CD → 退任  
ネットワーク... } 継続するには?!  
着任 ② CD

① 削減?! A先生  
いなくなる

**対応**

個人のネットワークを組織化する

相談会ネットワーク  
に客観性を持たせる  
名前つける、参加機種の  
担当決める

複数性(チーム)で取り組む  
情報を残すシステム化  
↓  
企業との関係性を引き継ぐ

A B  
↓  
A, B

\* A, Bは両方の責任のコーディネータ(マネージャー、リーダー)

